

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4370600506		
法人名	医療法人悠紀会		
事業所名	ゆうきの家		
所在地	熊本県玉名市上小田1180番地		
自己評価作成日	平成22年2月25日	評価結果市町村受理日	平成22年4月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/JigyosyoBasicPub>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	平成22年3月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の”今”の気持ちを大切に、気持ちが動いた時にしたい事が出来る支援をする。残存能力を引き出し、本人の意思を尊重し、その人らしく暮らせる様お手伝いしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療法人を母体とする2ユニットのホームは、ユニット毎に独自性の有るホームが形成されている。入居者のこれまでの培われた生活を、リズムを変えることなく本人のペースに合わせ支援していることが、”家族との素敵な時間”や”家族との生活”に注目したケアプラン等に表出している。大工仕事や野菜・季節の花を作ったり、料理等できることを精一杯行わる入居者等生きがい・役割のある生活を職員は笑顔で見守り、寄添いのケアに取り組んでいる。職員の離職も無く、高い理念を全員が共有し、入居者の普通の暮らしを実現する為、入居者本位の自由な生活に”今”に視点を置き、家族からの情報や意向収集、職員の気づきや提案の話合い等家族・職員のチームワークにより、生き生きとした生活を支援している。地域との交流促進にホームでバザーを開いたり、認知症ケア啓発への取り組み等ホームの持つハード・ソフト両面を活かしており、地域でのホームの位置を磐石なものとしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	本人の意思を大切に支援している	地域密着型として“家族や地域との結びつきを大切にし、開かれたホーム作りに努めます。”等4項目を掲げている。毎月ミーティングや勉強会の中で“本人本位”の生活支援に事例を検討したり、日々のサービス提供場面で理念に立ち戻るものと認識し、入居者個々の思いに視点を置き、全員が共通認識で日々のケアに真摯に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運動会や奉仕作業に参加する機会がある	法人全体が“地域に出よう”を目標にしており、奉仕活動(空き缶拾いや小学校の草取り等)や地域運動会へのチームとしての参加等ホームも地域の一員として積極的に外に向けて活動している。また、散歩時地域住民との歓談や野菜の差し入れ等もあり、職員も地元からの採用が多く、職員を通じた情報も地域の中での生活に反映させている。ホームで行うバザーにも近隣住民からの出品や参加もあり、相互交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で認知症についての勉強会を行い、地域の方々へ情報を発信している	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催しており、意見の交換の場となり、情報交換も行っている	2ヶ月毎と定例化した運営推進会議は入居者状況・生活・行事等の報告や毎回認知症ケア啓発にミニ勉強会等を入れ、意見交換を行っている。委員や家族へ課題の事前案内を行なっているが、家族の参加は少ないように見受けられる。	年1回の家族会の中で外部評価結果を項目毎に説明されているが、会議で使用される整理された多くの資料や議事録を送付することで、情報の共有や家族の参加にも繋がるものと思われる。参加委員からの意見が今後もサービス向上に活かされることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議で状態を伝えている	運営推進会議に毎回行政と包括支援センター職員が参加が得られており、相談や情報交換を行ったり、市と包括を中心としたキャラバンメイト連絡会にも参画しており、協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は昼間はカギをかけない状況に応じてベッド柵を使用している（家族の理解を得ている）	職員が身体拘束の具体的な行為や弊害を正しく理解するよう法人全体での研修や会議で話し合っている。家族の理解のもと、安全対策にベッド柵を使用することもある。施錠も拘束と捉え、外出傾向には一緒に出かけたり、寄り添いのケアにより玄関等開錠している。訪問時も裏口やウッドデッキから自由に入出入りされており、職員は見守りを徹底している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	院内研究等で勉強している		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人で勉強会が行われた今は活用される方はいないが、今後対象者がいらっしやったら活用できる支援体制を築いていきたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に説明し、その都度必要時に説明している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	1年に一度の家族会 その都度必要な時に話をうかがっている	入居者には日常的な関わりや会話の中から希望や要望を聞いている。年1回家族会を開催する他、家族には訪問時に声かけを行い、表された意見は苦情相談受付簿に記載し、原因や対策を話し合い家族に説明している。家族の提案により毎月1日は赤飯が食卓に上るようになる等具体的なサービス向上となって表れている。	今回のアンケートからは家族との良好な関係が構築され信頼関係が築かれていることが確認できた。外部の苦情相談の申し立て機関としては法人の相談窓口となっており、行政等の申し立て機関を重要事項にも掲載し、今後も継続して意見や要望の収集に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度のミーティングや勉強会で伝えている	管理者もケアに入り日常的に職員とのコミュニケーションを図り、毎月のミーティング時意見や提案を話し合い、看取りケアへの職員の不安感に職員配置を充実させている。施設長も職員の相談役としてミーティングに参加し、年2回の職能評価も働きやすい職場環境や向上心となり、明るいホームを醸し出している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事評価制度がある		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勉強会など、研修等に参加できている 習い事、試験を受ける機会がある		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH支部会への参加が出来ている 支部会の勉強会への参加 のど自慢大会への参加		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族、本人、施設長、ホーム長、ケアマネージャーで何回も話し合いが進められている 何日か、お試し利用が出来る		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族に状況を聞いている(本人も含めて)		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	病院の利用、リハビリに行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の希望を満たすように努力している 食事を共に作ったり、買い物に行ったりしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時などに、なるべく日常生活の様子を話し、家族の希望を聞くようにしている 毎日ご主人と昼食を共にする時間がある 息子さんの面会		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なるべく本人の希望される関係は続けるようにしている 行きつけの理美容院に行ける かかりつけの病院、会いたい人に会いに行ける	入居者の“今行きたい”という思いに即時対応したり、会話の中で把握した会いたい人を家族に相談し職員が同行している。毎日弁当持参で訪問される家族、自宅へ家族を迎えに立ち寄り一緒にスーパーで買い物される方等家族の協力を得ながら馴染みの人・場所が途切れないよう支援している。家族・親類や知人等の訪問や手紙等も送られている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常的に付き添う必要がある人が多くなり、全員に関わられない事が増えてきた 一緒に過ごす時間(コタツでテレビを観たり、日光浴をする事)が日常的にある		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談・支援には、応じる努力はしている 入院されても、洗濯をしたり、家族との交流がある 年賀状を出している		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望を無くされないように、本人の話を聞き、兼用している。本人の好みで、食事(マグロ)を提供している。美容室・買い物等の希望は叶える様勤めている	ケア基本“その人らしく”の実践に、日々の寄り添いのケア、傾聴に心がけ、「まるごととらえたケア記録」に発せられた言葉で記載したり、本人の状態の変化や思い、求められていることを表情やしぐさから推察しケアにつなげている。また、家族からの情報も活かしながら、プランに反映させている。	
----	-----	--	---	---	--

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族の方に生活暦等記入して頂き、話を聞き把握している 本人の思いに添ってしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアプラン立案時、ミーティング時などに多くのスタッフの持っている情報を出し合い、把握している。お盆拭きや食事作り、出来る事をしていただいている。一人ひとりに応じた対応をしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティングでスタッフ全員の意見を取り入れ、ケアプランにつなげている 家族や本人にも意向を聞いている	センター方式によるアセスメント活用により、本人・家族の意向に沿った個別計画は、半年毎の見直しやカンファレンス・家族の思い等に応じてプランを追加している。“その人らしく暮らせるように”“当たり前の暮らし”の理念もプランに反映され、“家族との素敵な時間”や生活歴による得意分野等が反映された具体的・個別的なサービス内容である。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	活かしている プランへ反映させたり、スタッフ間の情報が共有できる		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の結婚式、同窓会への同行、家族のイベントに参加できている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行きつけの魚屋さんで、安心して食材の購入が来ている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望される医療を支援している 家族に確認してから病状に応じて受診している	これまでのかかりつけ医支援で良いことを伝え、母体医療機関体制も話している。他の医療機関を利用されていた方も母体での健康診断により緊急時対応に繋げている。現在は全員が母体病院をかかりつけ医とし定期受診や往診の支援、専門病院についてもホーム職員が同行し、健康管理に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	急ぎの時は、TEL連絡等もしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	出来ている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・家族の思いを日常的に聞くようにしている 家族に前もって話している 家族の意向を確認している	重要事項の中に医療連携体制について記載し、入居時に説明を行なっている。殆どの方がホームでの最期を希望されており緊急時対応として酸素も準備している。これまで家族・医師の協力、終末期における2名夜勤体制と職員間の共有により看取り支援の事例がある。今後も日頃の入居者の言葉に出されている思いを大切にに取り組んでいきたいとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	実践的には身に付いていない 病院に応援を頼む		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の消防団の協力体制 防火訓練を行っている バケツに水を張っている 避難通路に物を置かないようにしている	消防訓練の他、日々夜勤者による火元・安全確認を行ない、チェック表への記入や夜間避難通路、出口の確保に整理整頓等意識向上を図っている。又法人社宅や地元の職員等応援体制とし、緊急時連絡網を整備している。	今後は地震や風水害についてもマニュアルの作成等災害対策が望まれる。又、消防団との協力体制は出来ており、協力体制の強化に期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけ「トイレ誘導」などを気をつけたい	個々の尊厳を重視し、目配り・気配りを大切にしたケアに努めて、ミーティングで事例を通して指導している。個人の記録物で他者についてはイニシャルで記入している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思を確認している 選べるような対応をしている 自己決定していただいている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々に応じた支援をしている 利用者を優先した対応をしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	重ね着のおかしい時等は、それとなく声かけしたりする時もある 着る服を選んでもらったり、美容室や顔そりに行っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の時の席、嗜好品、形態など一人一人に対応している 食事作り、お盆拭きを出来ている	入居者の嗜好や希望を取り入れ、差し入れ食材を利用しながら「旬」を大切にメニューを提供している。最高齢100歳の方をはじめとして個々が役割(調理・茶碗洗い・野菜の栽培等)を持って、日常的に一緒に参加されている。リビングのテーブル配置を数か所に分け入居者の希望や落ち着く場所で楽しい食事を支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	好みの物で水分を取ったり、栄養補助食品を取り入れたりしている 食事量をチェックしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけ、介助をしている 本人に応じたケアをしている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の訴えを聞いたり、時間でトイレ誘導している パットを減らす事は出来ていない	プライバシーに配慮した声かけで、個々の排泄時間に誘導しトイレでの排泄を支援している。本人の訴えにより、手引き誘導にて支援する場面も確認できた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ファイブミニ・センナ茶を使用している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個人に合わせて行っている その日の体調に合わせて入浴している	基本的にはいつでも入浴可能としており、その日の体調や個々の希望により朝からの入浴や夜間も9時まで支援している。家族や職員との温泉入浴等楽しまれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	21時で一応消灯している 個々に応じた対応で昼食後の臥床をされる方もある		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	日々の生活記録と一緒に、内服の用法と薬の作用が書いてある物を入れており、いつでも見て理解できている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	カラオケセットの購入、TV、歌の会、散歩、花見、誕生会、クリスマス会等 タバコ、マグロを好まれる方もいる 音楽療法(週1回)があっている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物、ドライブ等 散髪に行けた	安全に手入れされた法人敷地内を日常的に散歩されたり、職員の見守りの中一人で外出を楽しまれる入居者もいる。2ユニットの特性を活かした行き来し交流を図っている。家族参加のコスモス見学その他、母体のワゴン車を借りて花見ドライブ(桜・つつじ・菖蒲等)に出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小額の金は持って、散髪・顔そり・パーマ等に行かれる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状の書き方、贈り物のお礼のTEL等支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、加湿器、湯たんぽの利用 椅子、テーブルを置き、休憩できる様している	玄関やホーム内は季節の植物や職員の持ち寄った花々が随所に飾られ心和む空間である。ユニット毎に特性を活かした共有空間作りがなされ、木目の床は懐かしく、日々の手入れにより落ち着いた居心地の良さが保たれている。台所・浴室・トイレなど換気や風通しに配慮し不快な臭いも感じられない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	色々な場所で過せるように工夫している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人のタンス・鏡・仏壇等持っておられる家族の写真を貼られている	家族の協力によりテレビ・ソファ・タンスなど馴染みの品々を持ち込んだり、入院先のレイアウトの継続、家族の意向によりレイアウトされた部屋、居室入口の暖簾や不要になったジャーを利用したホットタオル入れ等職員の配慮により個々に応じた居室が支援されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーにしている		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4370600506		
法人名	医療法人 悠紀会		
事業所名	ゆうきの家 (第2ゆうきの家)		
所在地	熊本県玉名市上小田1180番地		
自己評価作成日	平成22年3月6日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	平成22年3月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりを大切に、その人の思いが叶えられるよう支援している。 決まり事のない自由な生活、気ままな生活ができるように支援している。 “今”“その瞬間”一瞬一瞬を丁寧に支える支援を大切にしている。 本人のしたいこと、出来る事、したくなるような環境づくりを大切にしている。 本人がこれまで築きあげてきた生活の継続ができ、本人の価値観を受け止め、家族と一緒に支えることを大切にしている。 自己決定ができるよう選択肢ある声掛けをしながら、その人中心の生活につながるができるようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの理念をつくり、見えるところに表示している。月1回のミーティングと勉強会で、事例をもとに、“本人の思い”に近づいていけるよう、ケアの振り返りをしながら、全職員間で共有できるようにしている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時、近所を散歩する方に、あいさつをかわしたり、世間話をしたり顔なじみの関係をつくるようにしている。地域からの野菜の差し入れがある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議時のミニ勉強会や、認知症サポーター養成講座【キャラバンメイト】として職員が参加している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回の開催し入居者の生活の様子などの報告をし、地域の情報をいただきながら、質向上に努めたい。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括支援センターと市の介護保健課の職員が運営推進会議のメンバーであり、会議の終了後に情報の交換、相談、報告などを行っている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の鍵は夜間帯のみで昼間はだれでも入れるようにしている。身体拘束については、法人全体で勉強会などで取り組んでいる		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体で勉強会、外部研修会等に参加して学ぶ機会を作っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人の社会福祉士による勉強会が実施された、今現在1名の入居者が後見人制度を利用している、必要に応じて活用したい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明を充分に行いサインを頂いている、また、不明な点などあればいつでも聞くように説明したり、話しやすい環境を大切にしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会などで意見を求めている、又、家族来所時等に意見など頂いた場合はそのつど対応している、苦情に関しても前向きに意見を受けとめていき感謝の気持ちを伝えている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングを通して、意見を聞いている。日頃もそのつど聞くようにしている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	1年に2回の人事評価(職能評価)を行い働きやすいような環境作りに取り組んでいる		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の希望を聞きながら、研修会等に参加できるようにしている、職場の中でも困った事などそのつど聞けるような環境を作っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	玉名郡市グループホーム連絡会があり、参加している。県の認知症実践者研修など他施設からの実習を通じて共に学ぶ機会がある		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人がどうしたいかを聞いて、自分から言える方は言動から、上手く伝えられない方は、その行動などから見つめるようにしている。入居前に面会し、家族と共に意向をたずねるようにしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に家族の思いを聞くようにしている、本人と家族の関係が継続できることを大切にしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要に応じてリハビリ等の利用を紹介している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	大工仕事が得意な人、料理が得意な人、その人が出来ることを一緒に楽しめるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の関係が継続できることを大切にしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自由に行ける様にしている。その時の希望など聞くようにしている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の会話、関わりなどは暖かく見守っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院が必要となり退居されたかたは、時々面会に行っている、家族と会うことで話ができることもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人に選んでもらうようにしている。選べない場合は事実から困っている事を考えどうしたいかにつなげ、本人の思いにつなげている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時センター方式の活用をし家族に記入していただいている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝の起きる時間、食事などその日によって違うことなど感じてその方がこちよい生活ができるようにしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度のミーティングでの検討と担当によるモニタリングを行い変化があれば見直している、職員全員で情報を共有している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録では本人の言動を記録して、どのような支援をしたかを記入している。介護計画の見直しにつなげる努力をしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	認知症デイのサービスを開始した。可能な場合はショートの入受も行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域に出る事で、地域の方から見守っていただくことで、声をかけてもらったり、関係作りが出来ている、他の事業所に出向いて入居者が活躍できる場面もある		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族の希望で受診している		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人の外来看護師に相談しそのつど受診など行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ホームで出来ること、お見舞いなど行い情報交換など行い関係作りを行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の思いなど確認しながら、必要時には医師からの説明を受けるなどしている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練などは行っていないが、勉強会やミーティングなどで事例を上げて確認している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練の実施は行っている、今後は地域の方と消防署と一緒に取り組むことを検討している(運営推進会議等で)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	選択肢のあることばかけをし、言われる事は否定せず受け止めている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人に決めてもらえる声掛け、本人が選べるようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のはじまりから本人のペースを大切にしている、その日にどのように過ごしたいかを大切にしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服を選んでもらったり、床屋など本人の希望を大切にしている(行き着けなど)		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の嗜好に合わせた献立を工夫している。食事のメニューや準備なども一緒に行っている。食器の片付けもされる		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	色んなものを飲めるようにしている(ポカリ、ヤクルト)		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりに合わせ、拒否があるかたなどはうがいなどで対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレで排泄できるように取り組んでいる		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝きなこ牛乳を飲んでいただいている、食事に果物をつけたりしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の希望に添っている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方方にあった支援をしている。(居室、ホールなど)		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を確認したり、必要時にはDrに相談している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	いつでもひけるようにキーボードをおいているなど自由に出来る環境を作っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の協力を得ながら、今行きたいところに行けるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が出来るかたは自分で持っておられる、希望におうじて預かり金も利用できるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話いつでもできる様にしている。手紙届いたら本人へ届けている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や、果物、切り干し大根など見えるところに置いている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に過ごせるように各所にソファ、椅子を置いている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持ち込み歓迎している。テレビ、タンス、など持ってこられている。必要に応じて取り付け家具も対応している(扉をはずしたり)		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーの建物、居室の表札がある。手すりも設置、浴槽の手すりなど		